

# こおろぎ

発行日 2004年2月1日 **No.131**  
発行元 株式会社  
オリジン・コーポレーション  
代表取締役：杉井保之  
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1  
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187  
E-mail [origin@ck.tnc.ne.jp](mailto:origin@ck.tnc.ne.jp)  
URL <http://www.origin-co.com>

## 人生を楽しむ

やっと大学の試験が終わりました。仕事をしながら試験勉強するのは予想していた以上にハードです。しかし私は、会社を離れ、家族と別れて、自分のしたいことをしているのですから、そのお返しの意味でもオール「優」を目指しています。

授業が終了してから仕事に行き、夜中に戻ると1～2時間睡眠をとり、6時間位勉強して、また学校に行くという生活が一週間以上続きました。

その中でも一番ハードだったのは中国語の勉強でした。英語ならまだ使う可能性もありますが、中国語を使う予定は全くありませんので、テストのためだけに暗記するのは本当に大変でした。

そんな生活を送っていると、娘がインフルエンザでダウンして、彼女なりに頑張っていたテストで思うような成績がとれずに、がっかりしているらしいという連絡を、妻からももらいました。そこで、右のようなハガキを娘に書きました。

私の東京の部屋には、テレビはもちろん、ストーブもお風呂もありません。凍える手を息で温めながら徹夜で勉強しているのですが、その生活が苦しいどころか、とても充実して感じるのです。

幸せとは、全てが満たされることや、楽しいことばかりではなく、精一杯生きている充実感であったり、自分のことを好きになっていくことではないかと、最近思うようになりました。

子どもたちにも、充実した人生を生きてほしいと願います。

せっかく頑張って勉強していたのに、風邪で力を出しきれなくて残念でした。お父さんも今、大学の期末テストを頑張っています。でも、こうして全力で頑張っていると充実感を感じてきます。もしかしたら成績は良くないかもしれませんが、頑張った自分を好きになります。ひかりも、自分を好きになる生き方をしてみてください。

## お便りコーナー

杉井さんのお話は、おもしろくて、すぐに集中して聞きました。「幸せ」ってというのは、誰でもなれるんだって聞いた時に、「やったー」って思いました。でも、幸せになるためには、他人に好かれなくてはいけなことを知りました。私は幸せになりたいから、他人に好かれることをしていきたいです。言葉や態度を大切にしていきたいです。

今日、お話を聞いたことで、これからの中学校生活や、これからの「幸せ」について考えることが出来ました。「幸せ」をみんなに分けるといふ話を聞いたので、今日の給食が足りなくなってしまうとき、みんなが「幸せを分けてあげよう」と言って、少しずつ足りない人にくれました。なんか嬉しかったです。

高洲中学校で行った道徳の授業の感想文です。他の生徒さんの感想文もホームページで紹介していますので、良かったらご覧下さい。

## 偶然をつかむコツ

人生というのは、本当に分からないものです。

高校から警察に進んだ私が、消毒業の会社を継ぎ、講師として全国を飛び回るようになるなんて、全く想像していなかったことです。

勉強嫌いの私が、40歳を過ぎたこの不況期に大学に行くなどと誰が想像したでしょう。

こうしてみると、人生というものは、自分の計算どおりに作られていくものではなく、ほんの小さな「きっかけ(偶然)」によって作られていくものようです。

皆さんも、「あの時、あそこに行かなかったら」「あの時、あの人と出会わなかったら」という「偶然」がありませんでしたか？

20代や30代前半の人には分かりにくいかもしれませんが、35歳を過ぎて同級会に行くと、「お前、変わったなあ！」と見違えてしまうほど立派になった人と、昔はずいぶん格好つけていたのに、「お前、変わっちゃったなあ～」という人がいるものです。

この差はどこからくるのでしょうか？ 努力の差なのでしょう？

アメリカのジョン・クランボルツ博士は、人生の扉を開いて人生を拓げていく人と、扉に気づかず人生が狭くなっていく人との差は、偶然をつかむ力の差だと言っています。

そこで述べられている「人生を拓く偶然をつかむコツ」は、次の通りです。

- (1) イエスから入る(ものごとを決め付けない・人の話を肯定的に聴く)
- (2) 自分から働きかける行動(素早く・マメに・手をかける)
- (3) 利他的な活動(人を喜ばせる・人のためなら得にならないこともやる)
- (4) 新しい刺激を自分に与える(生涯、学習をする)
- (5) 失敗を嫌わない(結果ではなく、どう生きているかに目を向ける)
- (6) 非日常的な行動によって、「偶然」を自分でつくる。

私は毎月、経営の勉強会を行っています。楽しそうにしている会社が変わっていく人と、頑張っているのになかなか変わらない人がいて、その差にこの6項目がピッタリ当てはまっています。

人は真剣になればなるほど、自分で最も良いと思っている方法に集中するものです。そうなると同じ人や同じ景色しか見る機会がなくなるので、人生の扉を手にする可能性は少なくなるのです。

多くの方は、自分に効果のあることはしても、自分に興味のないことや、得のないことをしないものです。しかし、実はそうしたところに思いがけない人生の扉があるのです。

「時間がない」「仕事が、仕事が」と言っている人ほど、行動がワンパターンになって、大きなチャンスを失っているのだと思います。

偶然を逃している人の一番の悲劇は、偶然があったことに気がつかないことなのです。

## ハガキ三昧

三月の通信新聞「ハガキ三昧」コーナーを、私が担当させていただくことになりました。ちょうど複製ハガキが5万枚を迎えるこの時期に、このようなチャンスをいただくのも不思議な縁を感じます。

もし、坂田先生に出会わなければ複製ハガキを始めていませんし、半田先生とのお縁がなければ、今回の掲載はなかったことです。

先月号にも書きましたが、やっぱり人生の扉は、自力だけでは開かないと思います。